

音楽家

# 大友良英

「ノイズの狭間で文化について考える」

2012年  
12月9日(日)

18:00~20:00

アーティスト

across  
みずのき美術館

# 大友良英トーク & ライブ

## 「ノイズの狭間で文化について考える」

across みずのき美術館

2012年 12月9日(日) 18:00~20:00(開場17:30)

料金: 1,500円(高大生1,000円) 定員: 40名(要予約・先着順)  
申込: 電話かFAX、メールで「氏名・住所・連絡先(tel.)」をお伝えください  
《みずのき美術館》tel. 0771-20-1888 / fax. 0771-20-1889  
/ e-mail: info@mizunoki-museum.org

### 開館記念特別企画「across みずのき美術館」

みずのき美術館をつくったのは、重度の知的障害のある人たちが暮らしてきて53年目を迎えた施設である。創設5年後に「労働だけでなく豊かな時間を彼らに」と願った創設者の意思で、週一度「絵を描く時間」が設けられた。その30年後、そこから生まれた作品がスイスの美術館「アール・ブリュットコレクション」にアジアで初めて永久収蔵された。それからさらに20年近くの時が流れた。

美術館を開設するため、亀岡駅から西へ5分ほどの北町商店街で、大正期に建てられた小さな建物を見つけた。主を亡くし、荒れるに任せた小さな理容店跡であった。過去、営みの中で何度も改修を重ねていた建物は、乾久美子氏の設計によって、その痕跡を残しながら、次代が必要とするに違いない価値を抱えて生まれ変わった。

今、美術館には、アール・ブリュットの作品群が展示されている。大きなガラス窓を通して、北東に牛松山を眺め、建物を貫くように南西へと旧街道が走る。美術館の中に立てば、時間の流れを感じるとともに、今まで眺めることができなかった何かに出会えるに違いない。

この「交差点、から、新しい文化をつくり出していくことができるのではないだろうか・・・」。いま、そして、これからのために、様々な表現者を招きたくなった。

#### 【開館記念展の案内】

「日本のアール・ブリュットについて語ろう 私たちが考えるこれからの美術」  
2012年 10月8日(月・祝) ~ 2013年 3月17日(日)

開館時間: 10:00 - 18:00 ※12月9日はイベント準備のため 16:00 閉館

休館日: 月曜日・火曜日

入館料: 一般...400円 / 高大生...200円 / 中学生以下...無料



## みずのき美術館



〒621-0861 京都府亀岡市北町18  
JR嵯峨野山陰線亀岡駅下車南口より徒歩8分  
www.mizunoki-museum.org

ノイズミュージックやフリー・ジャズの分野で活躍する一方、映画やドラマ音楽も手掛ける大友良英。近年は、音楽と美術を横断した表現や知的障害のある人とミュージシャンによるグループ「音遊びの会」のサポートでも注目を集め、昨年からは、福島出身のアーティスト達と共同で「プロジェクトFUKUSHIMA!」を立ち上げるなど活動の幅広さは驚異的とも言える。そんな彼が、今年10月に開館したばかりの「みずのき美術館」にやってくる。近年の活動を中心にしたトークと、アコースティックなライブで新しいこの場所に、どんな風を導いてくれるだろう？

### 大友良英 OTOMO YOSHIHIDE

音楽家、ギタリスト、ターンテーブル奏者。1959年横浜生れ。十代を福島市で過ごす。常に同時進行かつインディペンデントに多種多様な作品をつくり続け、その活動範囲は世界中におよぶ。ノイズやフィードバックを多用した大音量の作品から、ジャズやポップス、歌謡曲、音響の発生そのものに焦点をあてた作品までその幅は広く、この数年は美術の領域にまたがる作品も数多く手がけている。映画音楽家としても数多くの作品を手がけ、中国香港映画からNHKのドラマまで、現時点で70作品を超えるサントラを制作。近年は「アンサンブルズ」の名のもと音楽家に限らず様々な道のプロフェッショナルからアマチュアに至るまで、多様な人たちとの協働を軸に展開する音楽展示作品や特殊形態のコンサートに力を入れている。現在、遠藤ミチロウ、和合亮一とともにプロジェクトFUKUSHIMA!の共同代表を務める。著書に『クロニクルFUKUSHIMA!』(青土社)、『MUSICS』(岩波書店)、『大友良英のJAMJAM日記』(河出書房)、『ENSEMBLES』(月曜社)などがある。

